

平成26年12月19日

各 位

公益財団法人 大同生命国際文化基金

**翻訳出版事業「アジアの現代文芸」シリーズ
の新刊と既刊の電子書籍化について**

公益財団法人 大同生命国際文化基金（大阪市西区江戸堀1-2-1 理事長：喜田哲弘）が公益事業の一つとして行っております翻訳出版事業「アジアの現代文芸」シリーズの新刊と既刊の電子書籍化について、以下のとおりお知らせします。

記

1. 「アジアの現代文芸」シリーズの電子書籍化について

アジア諸国の現代文芸のうち、わが国への紹介が望まれる作品を翻訳・出版する事業で、アジアの国々の今日の姿をそれぞれの国が生んだ文芸作品を通じて理解することを目的としています。

本事業は営利を目的とせず、財団自らの手で翻訳・出版にあたるもので、企業財団として他に例のない事業として取り組んできましたが、作品(出版部数2,500部)は全国の大学、国公立図書館等に寄贈し、市販を一切行っていないことから、図書館に行かない限り読んでいただくことはできませんでした。

そこで、30年近くをかけて翻訳・出版してきた12カ国、64点の作品(平成26年12月現在)を、より多くの文学ファンの方に読んでいただけるよう、大同生命が平成24年度に創業110周年を迎えたことを契機として、同年度より紙の書籍の出版と並行して、既刊・新刊の電子書籍化を進めております。

2. 新刊『ムーサーの一撃』について

『ムーサーの一撃』を片岡弘次氏の翻訳により、紙の書籍および電子書籍として出版しました。

これは「アジアの現代文芸」シリーズの64冊目にあたり、パキスタンとしては10冊目の作品になります。本書の著者イクバルの作品は、2011年に『ジブリールの翼』（片岡弘次氏訳）を出版しています。

いずれの作品もインド・パキスタン分離独立(1947年)前の1930年代の英領インドにおいて、衰退の道をたどるイスラーム社会の将来を憂い、イスラーム教徒の再生と覚醒のメッセージを詩に託していますが、本書ではタイトルに含まれる“一撃”に表されるように、より直截なメッセージとなって迫ってきます。

詩的技巧に優れた『ジブリールの翼』と哲学的思考に力点が置かれた『ムーサーの一撃』を併せてお読みいただければ幸いです。

3. 電子書籍化について

新刊に併せて、今回は新たに既刊7作品を電子書籍化しました(既刊7作品の作品紹介は5～6ページ参照)。

電子書籍として無料公開している作品はこれまでに公開した33作品とあわせて41作品となり、当財団ホームページ(<http://www.daido-life-fd.or.jp/>)上の「アジアの現代文芸電子図書館」からご覧になることができます。

【新たに電子書籍化した8作品】

	作品名(国名)	翻訳出版時期	著者	翻訳者
既刊	①チバラックの丘の麓で (インドネシア)	平成4年4月	アフマッド・トハリ	山根しのぶ
	②イサーンの医者(タイ)	平成7年3月	スミット・ヘーマサトン	野中耕一 監修、坂田久美子 編訳
	③ベトナム現代短編集1 (ベトナム)	平成7年11月	マイ・グー他	加藤栄 編訳
	④ある女の肖像 (マレーシア)	平成10年3月	S・オスマン・克蘭タン	小野沢純 監修、加古志保 訳
	⑤ミャンマー現代女性短編集 (ミャンマー)	平成13年10月	マ・ティーター(サンヂャウン)他	南田みどり 編訳
	⑥バングラデシュ詩選集 (バングラデシュ)	平成19年11月	ニルモレンドウ・グン他	丹羽京子 編訳
	⑦ジブリールの翼 (パキスタン)	平成23年3月	ムハンマド・イクバル	片岡弘次
新刊	⑧ムーサーの一撃 (パキスタン)	平成26年12月	ムハンマド・イクバル	片岡弘次

【これまでに電子書籍化した33作品】

作品名(国名)	翻訳出版時期	著者	翻訳者
①業の罫(タイ)	昭和61年3月	ドゥアンチャイ	吉岡みね子
②アジアにかかる虹(タイ)	昭和62年2月	スミット・ヘーマサトン/ アキン・ラピーパット	野中耕一 編訳
③パルメーシャル・スイング (パキスタン)	昭和62年7月	アフマド・ナディーム・ カースミー	鈴木斌 編訳

作品名 (国名)	翻訳出版時期	著 者	翻 訳 者
④チャオプレーヤー河の流れ (タイ)	昭和62年11月	サティエン・ チャンティマートーン	吉岡 みね子
⑤静寂(パキスタン)	昭和63年 5月	アフマド・ナディーム・ カースミー	鈴木 斌 編訳
⑥ニ・ポロック (インドネシア)	平成 2年 1月	ヤティ・マルヤティ・ ウィハルジャ	佐々木 重次監 修、山根 しの ぶ訳
⑦初夏 霞立つ頃 (ミャンマー)	平成 2年11月	マアウン・マアウン・ ピュー	河東田 静雄
⑧地、水そして花(タイ)	平成 3年 7月	サクチャイ・バムルンポン	吉岡 みね子
⑨農民ガバ(ミャンマー)	平成 4年 7月	マアウン・ティン	河東田 静雄
⑩ダーダーと呼ばれた女 (パキスタン)	平成 4年12月	ハディージャ・マストウ ール	鈴木 斌 編訳
⑪ヌキのいない旅 (インドネシア)	平成 5年 4月	アイプ・ロシディ	粕谷 俊樹
⑫ミャンマー現代短編集1 (ミャンマー)	平成 7年 2月	マウン・ターヤ他	南田 みどり
⑬鱒の涙(フィリピン)	平成 9年 3月	アマド・V・ヘルナンデス	大上 正直監 修、蜂谷 純子 訳
⑭ミャンマー現代短編集2 (ミャンマー)	平成10年 9月	マウン・ティンスン他	南田 みどり
⑮農園の日差し (ベトナム)	平成12年 9月	タック・ラム	川口 健一
⑯愛のかたみ (インドネシア)	平成14年10月	ヤティ・マルヤティ・ ウィハルジャ	山根 しのぶ
⑰レダン山のお姫様(マレ ーシア)	平成15年 4月	——	藤村 裕子/ タイバ・スライ マン 編訳
⑱敗者の勝利(タイ)	平成16年12月	セーニー・サオワポン	吉岡 みね子
⑲山の麓の老人 (マレーシア)	平成17年 3月	アジジ・ハジ・ アブドゥラ	藤村祐子、タイ バ・スライマン
⑳ベトナム現代短編集2 (ベトナム)	平成17年 8月	ヴォー・ティ・スアン・ ハー他	加藤 栄 編訳
㉑ビールーの少年時代 (インド)	平成18年11月	クリシュナ・ バルデーオ・ヴァイド	長崎 広子
※㉒地獄の一三六六日 (カンボジア)	平成19年 2月	オム・ソンバット	岡田 知子
㉓漁師(ミャンマー)	平成19年 8月	チェニイ	河東田 静雄

作品名 (国名)	翻訳出版時期	著 者	翻 訳 者
②④罪との闘い(タイ)	平成20年11月	シーブーラパー	宇戸 清治
②⑤幻想の国(タイ)	平成21年 9月	M.R. ニミットモンコン・ナワラット	吉岡 みね子
②⑥ティンペーミン短編集 (ミャンマー)	平成22年 2月	ティンペーミン	南田 みどり
②⑦変革の時代(スリランカ)	平成23年10月	マーティン・ウィクラマシンハ	野口 忠司
②⑧ウダイ・プラカーシ選集 (インド)	平成23年12月	ウダイ・プラカーシ	石田 英明
②⑨時の終焉(スリランカ)	平成24年 9月	マーティン・ウィクラマシンハ	野口 忠司
③⑩現代タイのポストモダン短編集 (タイ)	平成24年12月	プラーブダー・ユン他	宇戸 清治
③⑪ベンガル詩選集 『もうひとつの夢』(インド)	平成25年10月	ジボナノンド・ダーシュ 他	丹羽 京子
③⑫ラオス現代文学選集 (ラオス)	平成25年12月	ドワンチャンパー他	二元 裕子
③⑬短編集 買い物かご (ミャンマー)	平成26年10月	キンキントウー	斎藤 紋子

※平成19年10月「第43回日本翻訳出版文化賞」(日本翻訳家協会)受賞

<国別出版作品数>

国 名	出版作品数	国 名	出版作品数
イ ン ド	8 点	バングラデシュ	2 点
インドネシア	5 点	フィリピン	1 点
カンボジア	2 点	ベトナム	3 点
スリランカ	3 点	マレーシア	4 点
タ イ	16 点	ミャンマー	8 点
パキスタン	10 点	ラ オ ス	2 点
		計	64 点

以上

照会先：公益財団法人大同生命国際文化基金 事務局（北迫）
電話 06 (6447) 6357 / Fax 06 (6447) 6384

作品紹介

(1) チバラックの丘の麓で(インドネシア)

中部ジャワののどかな農村、タンギル村。チバラックの丘の麓のこの村にも近代化の波が押し寄せます。古い因習をひきずりながら否応なしに新しい生活様式へと変化を遂げていく村を背景に、ひとりの青年を中心にさまざまな人間模様を描くこの作品は、アフマッド・トハリ(1948-)氏の最初の長編小説です。1978年にジャカルタ芸術家賞を受賞しています。中部ジャワののどかな農村に暮らす人々の姿を生き生きと描いており、普遍的な人間の営みを垣間見ることができます。(原作発表年 1977年)

(2) イサーンの医者(タイ)

医師であると同時に農村開発リーダーでもあり、1973年にマグサイサイ賞を受賞したカセー・チャナウォン(1934-)氏の半生の記録とその偉大な研究業績について著された作品です。あたたかく誠実な同氏の農村医療への取組みは、私たちに改めて地域社会の在り方を問いかけています。志高き人物の熱意と愛情に溢れた生き方から、私たちは多くを学ぶことができるのではないのでしょうか。後半にカセー氏自身が友人にあてた手紙、著書『私の農村開発論』(抜粋)、カセー氏へのインタビュー記録が掲載されています。(原作発表年 1974年、1990年、1992年)

カセー氏は、後にタイ国大学庁長官、外務大臣、首相府大臣などのタイ政府の要職を歴任し、2004年には、日本から外国人が受勲できる最高位の日本国勲一等旭日大綬章を授与されています。

(3) ベトナム現代短編集1(ベトナム)

ドイモイ(1986年)後、ベトナムの文芸界はにわかに活気づき、夥しい数の小説が次々と発表されるようになりました。編訳者の加藤氏は現代ベトナムの素顔をさまざまな角度から活写した作品を鋭い眼力で選りすぐり、一冊の短編集にまとめ上げました。これらの作品から、ベトナム人が日々どんな生活をし、何を心の糧として生きているのかを読み取ることができるでしょう。(原作発表年：1987年～1995年)

(4) ある女の肖像(マレーシア)

マレーシアは「ルックイースト」政策などにより経済的發展を遂げた国ですが、多民族複合国家で、特にマレー系と中国系との間に複雑な人種問題を抱えている国でもあります。この作品では、このようなマレーシアの実情に触れるとともに、第二次世界大戦を挟んだ激動の時期に、強く、逞しく、叡知を働かせて生きた女性である著者の母の一代を描いています。われわれ日本人とは異なるイスラム教の宗教観が全編に貫かれています。宗教や国は違っても、母の存在そのものは変わらないということが実感されます。(原作発表年 1990年)

(5) ミャンマー現代女性短編集(ミャンマー)

ミャンマーの20人の女性作家による短編小説集です。各々の女性作家が、娘、妻、母、女といったそれぞれの立場から、ミャンマーの社会やそこに生きる人々の姿を描いています。(原作発表年 1985～1999年)

(6) バングラデシュ詩選集(バングラデシュ)

バングラデシュとインドにまたがるベンガルは、ノーベル文学賞の詩人タゴールを輩出したように、古くから「詩の国」として知られています。そこに住む人々は幼い頃から詩に親しみ、長じても詩を心の拠りどころとして暮らしています。本書は、そのベンガルの現代バングラデシュを代表する3人の詩人の作品81編をまとめたものです。(原作発表年 1983年、1991年、1993年)

(7) ジブリールの翼(パキスタン)

この詩集の著者であるムハンマド・イクバル(1877-1938)は、パキスタンの「国民的詩人」とすると同時に、宗教家、哲学者、政治家としても著名であり、ペルシア語またはウルドゥー語で書かれた彼の詩は、現代のパキスタンにおいて最高峰のものとされています。なかでも、1935年刊行の本詩集はイクバルの最も優れた詩集とされています。イスラム教徒とヒンドゥー教徒の対立が激化していた英領インドにおいて、イクバルはイスラム社会の衰退と崩壊を救うにはどうすればよいかを考えるようになります。そして、それは没落してしまったイスラム教徒に向けての覚醒のメッセージを伝える詩となって表われました。イクバルの詩からは、ムスリムの宗教的・哲学的思想などとともに、独立前のパキスタンの政治的な諸情勢を読み取ることができます。(原作発表年 1935年)
